
第2節 第1次計画における取組状況と課題

1. 主な取組状況

(1) 家庭・地域施設・学校などで子どもが本に親しむ機会の充実

①家庭における機会の充実

- ・保健センターの育児学級では、図書館職員が、保護者に対して乳幼児にお勧めの本のリストを配布するとともに、読み聞かせの大切さや図書館の利用方法をお知らせしました。
- ・図書館では、家庭で行う読み聞かせの楽しさや大切さを伝えるため、就学前の幼児とその保護者を対象に、職員によるおはなし会を定期的に行いました。
- ・幼稚園では、保護者を対象に絵本や読み聞かせについての講演会を開催しました。
- ・児童館、保育所、公民館や幼稚園では、読み聞かせの楽しさや大切さを伝えるため、様々な機会を捉えて読み聞かせなどを実施しました。
- ・保育所や幼稚園では、絵本の貸し出しを行いました。

②地域施設における機会の充実

- ・図書館では、就学前の幼児とその保護者を対象に、おはなし会などを実施するほか、相談や質問に対応するレファレンスサービス¹を行いました。
- ・児童館、総合子育て支援センター、公民館、保健センターなどでは、読み聞かせや絵本の紹介などを実施しました。

③学校などにおける指導の充実

- ・保育所、幼稚園、小・中学校では、年齢層に合わせた絵本の読み聞かせや紙芝居などを実施しました。
- ・学校では、図書館が行う学校への団体貸し出し、ブックトーク²や図書館利用教育の出前講座などを活用し、指導の充実を図りました。また、図書館と教育センターが共催している学校図書館担当者との情報交換会に参加しました。
- ・小・中学校においては、朝の読書を推進しました。

④ボランティアなどとの連携の推進

- ・児童館、保育所、公民館、図書館、幼稚園や小・中学校では、ボランティアや団体との連携により読み聞かせなどを実施しました。

- ・読み聞かせなどで使用する図書資料について、ボランティアや団体への団体貸し出しを実施しました。

(2) 子どもの読書活動を推進するための環境の充実

① 図書館の充実

- ・児童書の充実を図るとともに、子どもの読書活動についての質問や相談に対応しました。
- ・おはなしのへやを整備するほか、図書館が薦める本の展示や貸出を行いました。
- ・移動図書館「さみどり号」の運行では、巡回場所の一部を幼稚園や小学校に設置しました。
- ・子ども向け事業の実施や、様々な相談に対応していくため、職員のスキルアップを図りました。

② 学校図書館の充実

- ・学校図書館資料の充実に努めるとともに、平成28年度からは、中学校に図書管理システムを導入して蔵書管理の電子化を進めました。
- ・平成28年度から中学校に学校図書館司書を配置し、小学校へも派遣しました。

(3) 子どもの読書活動に関する啓発の推進

① 「家庭読書の日」などを活かした啓発

- ・公民館、図書館、幼稚園、小・中学校では、「家庭読書の日³」、「子ども読書の日⁴」、「こどもの読書週間⁵」の周知に努めました。

② 子どもに薦めたい本の普及

- ・図書館では、年齢層に合わせた児童・生徒向けの広報紙の発行や、お薦め本のリストの作成や展示を行いました。
- ・教育委員会では、「子どものときに読みたい本100冊」（以下「さやまの100冊⁶」という。）を選定し、推奨しました。

2. 目標の達成状況

第1次計画で掲げた目標の達成状況は、以下のとおりとなりました。

なお、(3)については平成29年度末時点での数値を、(6)については平成29年9月に実施したアンケート調査結果の数値を、他については、平成29年10月に実施したアンケート調査結果の数値を元に比較を行っています。

- (1) 「本を読むことが好き」あるいは「どちらかといえば好き」と答えた子どもの割合

	平成23年度	平成29年度	平成29年度目標
小学2年生	90.2%	93.3%	95.0%
小学5年生	80.5%	77.7%	90.0%
中学2年生	82.9%	78.5%	90.0%

平成23年度と比べ、「本を読むことが好き」、「どちらかといえば好き」と回答した小学2年生の割合は増えてきましたが、小学5年生と中学2年生では逆に減少となりました。いずれの学年においても目標達成には至りませんでした。

- (2) ひと月に本を読む冊数が「0冊」と答えた子どもの割合

	平成23年度	平成29年度	平成29年度目標
小学2年生	2.0%	2.1%	1.0%
小学5年生	6.1%	9.6%	3.0%
中学2年生	13.3%	9.7%	6.0%

平成23年度と比べ、本を一冊も読まない子どもの割合は、小学生では増加しましたが、中学生では3.6ポイントの減少となりました。いずれも目標達成には至りませんでした。

- (3) 市立図書館の児童書貸出冊数

平成23年度	平成29年度	平成29年度目標
312,670冊	309,356冊	331,000冊

平成23年度と比べ、貸出し数は減少となり、目標達成には至りませんでした。

- (4) 市立図書館で本を「月に1回以上」あるいは「年に何回かは」借りると答えた子どもの割合

	平成23年度	平成29年度	平成29年度目標
小学2年生	65.1%	64.2%	80.0%
小学5年生	60.8%	56.8%	80.0%
中学2年生	26.2%	31.7%	50.0%

図書館の利用状況では、平成23年度と比べ、中学生では借りると答えた子どもの割合が増加しましたが、小学生では逆に減少となりました。いずれも目標達成には至りませんでした。

- (5) 休み時間や放課後に学校図書館を「よく利用する」あるいは「たまに利用する」と答えた子どもの割合

	平成23年度	平成29年度	平成29年度目標
小学2年生	66.5%	70.5%	80.0%
小学5年生	54.1%	57.6%	80.0%
中学2年生	25.0%	22.0%	50.0%

学校図書館の利用状況では、平成23年度と比べ、小学生では利用すると答えた子どもの割合が増加しましたが、中学生では減少となりました。いずれも目標達成には至りませんでした。

- (6) 「さやまの100冊」を読破した子どもの割合

		平成29年度	平成29年度目標
小学校	低学年	2.9%	10.0%
	中学年	0.2%	10.0%
	高学年	0.1%	10.0%
中学生		0.1%	10.0%

各学年向けに選定した25冊すべてを読破した子どもの割合は低く、目標との間に大きな乖離ができる結果となりました。

3. 今後の課題

- (1) 子どもが本に親しむ機会の充実

- ・家庭での読書活動を促進するため、子どもの読書活動の意義や重要性について、保護者の理解を深める機会を充実させることが必要です。
- ・読書を習慣として身に着けていけるよう、子どもが身近に本に親しめる機会や、子どもが読みたい本と出会える機会を充実させることが必要です。
- ・読み聞かせなど人に読んでもらうことを楽しむ経験から、自分で読んで楽しむ経験へとつないでいく機会を充実させることが必要です。
- ・年齢が上がるにつれて読書から離れる傾向が続いていることから、それぞれの年齢に合わせた読書活動の機会を充実させることが必要です。
- ・読書活動を推進していくためには、子どもと本をつなぐ活動をしているボランティアや団体の協力が不可欠であることから、こうした団体などとの連携や活動の支援を充実させることが必要です。

- (2) 子どもの読書活動を推進するための環境の充実

- ・子どもがいつでもどこでも気軽に読書に親しめる環境の充実が必要です。

- ・読書活動の拠点となる図書館や学校図書館を利用する子どもの割合が減少していることから、利用しやすい、魅力のある図書館環境を整備することが必要です。
- ・学校への学校図書館司書の配置や学校図書館の蔵書管理の電子化が始まりましたが、こうした環境の整備を全校に広げることが必要です。

(3) 子どもの読書活動に関する啓発の推進

- ・子どもの読書活動を推進するためには、子どもの読書活動の意義や重要性について、保護者、保育士、図書館職員や教職員など子どもの周りにいる大人の理解と関心を深めることが必要です。
- ・「家庭読書の日」、「子ども読書の日」、「こどもの読書週間」などの機会を活かしながら、読書活動の推進を図ることが必要です。
- ・子どもたちに推奨したい本の紹介や、図書館や学校図書館の利活用について積極的にPRしていくことが必要です。

1 レファレンスサービス

利用者からの資料や情報の求めに応じ、図書館の資料と機能を活用して、資料検索の援助や資料提供を行うサービス

2 ブックトーク

あるテーマに沿って様々なジャンルから選んだ本の内容を紹介し、読書意欲を起こさせる活動

3 家庭読書の日

「国民読書年」であった平成22年に、家庭での親子のふれあいなどを目的に、狭山市教育委員会が毎月23日を「家庭読書の日」と定めた

4 子ども読書の日

平成13年に施行された「子どもの読書活動の推進に関する法律」で毎年4月23日を「子ども読書の日」と定めた

5 こどもの読書週間

公益社団法人読書推進運動協議会が主催し、毎年4月23日～5月12日に実施している

6 さやまの100冊

「国民読書年」であった平成22年に、狭山市教育委員会が、子どものときに読んでほしい本を、小学校低学年向け、中学年向け、高学年向け及び中学生向けの4つの年齢層に分け、それぞれ25冊ずつ選定したもの